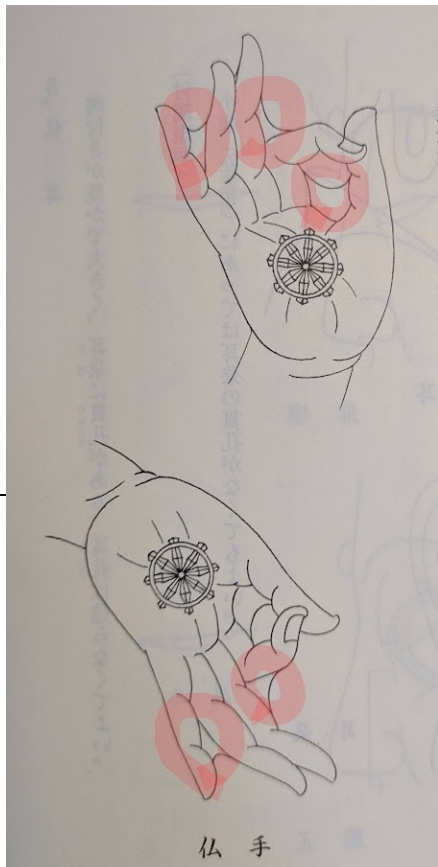
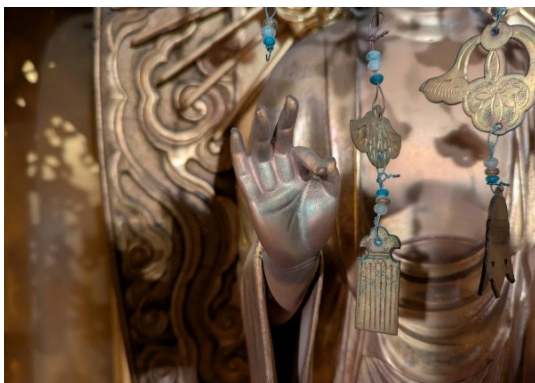


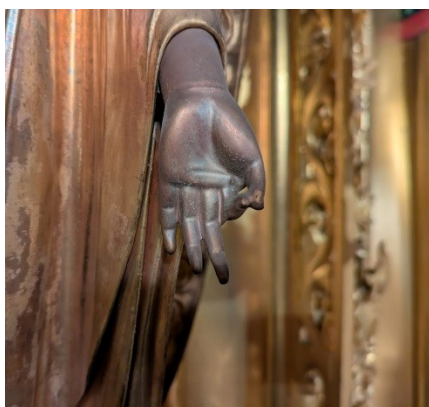


図は本派「木仏点検基準要綱」より。丸印(住職記入)の所が水かきを表す



明法寺のご本尊右手(指と指がくっついて
います)

の「だからです。しかも「足の水かきは」「漏らさない」という説明にはなりにくいような・・・しかし先日お聞きしたある和上のお話が腑に落ちました。「よく」法話で『漏らさない』と言われる水かきのお話、お経の



明法寺のご本尊左手

中にそんなこと書いていない。水かきは泳ぐもの。この世界は苦しみの世界として海にたとえられる。この苦しみの海で私たちは溺れている。仏さまは、この苦しみの海を自由自在に泳いで溺れている人を救ってくださる、だから手にも足にも水かきが表現されている」とお話されてすこく納得



明法寺のご本尊の足

しました。「生死の苦海」と親鸞聖人はお示くださいましたが、海で溺れている(迷いの世界に生きる)この私を救わんがために、自由自在に(早く、どこまでも)泳ぐために水かきがあるのだと。ただ素直に漢字だけで何うと、「縋網まんもう」の相の「縋」という漢字は「模様や飾りのない絹布。ゆるやか、ゆったりとしている」という意味があります。次に「網」はいわゆる「ありみ」です。ということとは「縋網」とは「無地のゆったりとした網」といったところでしょうか。仏さまの手は、私を救うためにそ

法要・行事予定

◎仏婦・仏壮合同法座

日時：6月29日(日)朝席・昼席

講師：朝枝暁範師(北広島町中原 本立寺)

※お斎(軽食)をご用意します

◎ヨガ

6月18日(水)、7月16日(水)

の指を広げても、指と指の間の隙間から広げたときにできる「ゆったりとした網」「縋網」でもって漏らすことなく救ってくださるのだといただくことができます。いずれにせよ、「一つも漏らす救うため」「苦海を泳いで救うため」どちらの味わいが正しい間違いないことではありません。仏さま(阿弥陀如来さま)の救いが、間違いないおはたらきであることを表す尊いお姿であるといいただけます。